



2017
November
26

一般に英検と呼ばれる「実用英語技能検定(主催:公益財団法人日本英語検定協会)」の最難関である1級に文理科2年の吉田凪君(都城市・西中学校出身)が見事に合格しました。宮崎日日新聞掲載記事の中で合格までの道のりと将来の夢を語っています。また、本校には現在、1級に合格している生徒は吉田君も含めて2名、準1級合格者は10名在籍しています。

ちなみに、英検1級と準1級のレベルは、英検1級=大学上級程度。合格率は例年10%程度(成人含)。準1級=大学中級程度。合格率は例年15%程度(同)となっています。今年度の検定試験は残すところ、あと1回。これから受験する生徒たちの成果にも期待しています。

英検1級 独学で合格



吉田 凪さん

宮崎第一高二年

新聞掲載

宮崎市・宮崎第一高文理科2年の吉田凪さん(17)は、英検で最難関の1級に合格した。1級は受験する目安が大学上級程度とされ、同校によると、帰国子女ではない高校生の合格は珍しいという。吉田さんは「自信がついた。将来は国際的なジャーナリストになりたい」と目を輝かせる。

自宅に父親の本がたくさんあり、読書好きになったという吉田さん。都城市・西中で英語を習い始める時、「日本で広まっている情報を知らなければならない」と思っようになり、勉強にのめり込んだ。中2、3年で英検準2級と2級、さらに大学中級程度とされる準1級まで

夢は国際ジャーナリスト

高校に入ると、目標の1級受験に向け、ラジオ講座で聞き取る力を養い、対策本などで語彙(ごい)力や読解力を養った。塾や英会話教室には通わず、電車通学の合間を縫って独学で取り組み、初めて挑戦した今年6月の試験で筆記の1次試験を突破した。

2次試験は面接で、その場で出された題材について2分間で話し、質問に答える。題材は社会問題から幅広く出題され、このときは「言論の自由はどんな犠牲を払っても守るべきものか」。図書室の本を読み、新聞やテレビの報道に常に触れるようにしてきた吉田さんは、「共謀罪」などに触れつつ自分なりの理論を展開。2度目の試験で合格率1割程度という難関を突破した。

学校で英語ディベート部に所属し、会話を磨いてきたという吉田さん。「将来は社会問題を世間に問い、考える機会を提供できるように、考える事に就ければ」と話している。

(竹之下理恵)

▲宮崎日日新聞(11月26日掲載)

実用英語技能検定 1級取得者

石坂果南(3年/宮崎第一中出身)
吉田 凪(2年/都城市・西中出身)

実用英語技能検定 準1級取得者

岩井美咲希(3年/赤江中出身)
川原令子(3年/木花中出身)
古城七海(3年/高千穂中出身)

篠原 曜(3年/宮崎第一中出身)
堀之内俊(3年/宮崎第一中出身)
遠藤詩織(3年/宮崎第一中出身)
金城彩音(3年/宮崎第一中出身)

森田真由(3年/宮崎第一中出身)
太田原みか(2年/清武中出身)
眞田 藍(2年/宮崎第一中出身)